

(参考資料) これまでの経緯と施設の概要等について

平成 19 年 2 月
秋田市商工部

1 公設化の意義・目的

(1) 公設化とは

これまで第三セクター（ポート秋田株式会社）が建設し運営してきた秋田ポートタワー「セリオン」を市の施設とし、以降、市が運営していくことです。

(2) 公設化の目的

セリオンは、秋田港に多くの集客やにぎわいをもたらすアメニティ空間の中心として公益性が高く、今後も秋田港はもとより秋田市のシンボルとして存続させていく必要があります。

2 これまでの経緯

- ・ 昭和 63 年 3 月 「秋田港ポートルネッサンス 2 1 事業実施計画報告書」（秋田市）
ポートタワーとコンベンションセンターを初期整備とする三セク事業主体の計画
- ・ 平成元年 7 月 ポート秋田株式会社設立
- ・ 平成 4 年 2 月 タワー建設に着手 ~ 平成 6 年 2 月 竣工
- ・ 平成 6 年 4 月 「セリオン」オープン
- ・ 平成 8 年度 会社の経営悪化が表面化
- ・ 平成 12 年度 市議会「企業・公社等の経営、財政に関する調査特別委員会」の委員長報告を受けて、セリオンを平成 18 年度中に公設化することを決定
- ・ 平成 17 年 10 月 市がポート秋田(株)に対し、会社の平成 18 年度当初負債相当額による有償での施設買収を提示（税込み約 11 億円）
- ・ 平成 18 年 9 月 ポート秋田(株)の臨時株主総会において、セリオン施設を 18 年 12 月時点の負債相当額にて譲渡することを決議（税込み約 9 億 3 千万円）
- ・ 同 10 月 ポート秋田(株)と秋田市において、セリオンの建物売買取引契約を締結
- ・ 同 11 月 秋田市議会臨時会において、「秋田市ポートタワーセリオン買入れ」の議案を議決
- ・ 同 12 月 秋田市議会定例会において、「秋田市ポートタワー条例」の議案を議決

3 施設の概要

秋田港ポートルネッサンス 2 1 事業計画のもと、そのシンボル施設として、第三セクターポート秋田株式会社が建設した、6,272 枚もの特殊強化ガラスで囲まれたガラスタワーです。

(1) 建築面積 : 2,190 m²、延床面積 : 4,747 m²、高さ 143.6m

- (2) 低層階は1、2階、中層部分は吹き抜け、高層階が3～5階、屋上は電波塔。
 1階：貸ホール、お土産店・軽食・レストラン（会社直営およびテナント）
 2階：貸ホール、ちびっこコーナー
 3階：ギャラリー（市がフロアを借り上げ、会社で企画する絵画・写真を展示）
 4階：飲食店舗（スカイラウンジ）
 5階：展望室（床面が地上100m）

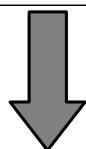
(3) タワー展望者数の推移

（単位：人、％）

年 度	6	7	8	9	10	11
展望者数	337,437	179,912	123,676	134,780	104,846	97,787
対前年度比	-	53.3	68.7	109.0	77.8	93.3
年 度	12	13	14	15	16	17
展望者数	81,207	73,629	80,985	75,434	63,279	58,013
対前年度比	83.0	90.7	110.0	93.1	83.9	91.7

4 利活用検討の手法

18年度 秋田市ポートタワー利活用検討会
 (1)メンバー：国・県等関係機関や学識経験者、専門家等
 周辺の事業者や地元団体をゲストとして招聘
)検討内容： これまでの経緯と現状の確認
 セリオン利活用の大まかな方向付け
 19年度以降の検討スキームの決定
 (3)その他：市民100人会や施設利用者を対象としたアンケートを実施。



19年度 ポートタワー再生プラン策定委員会
 (1)メンバー：検討会メンバー＋地元団体、観光事業者、専門家等
 (2)検討内容： 具体的な再生プランの策定
 リニューアルオープンまでの年次計画
 (3)設置期間：2年間を予定(19・20年度)

5 問い合わせ先

秋田市商工部 港湾貿易振興課 港湾振興担当
 TEL：018-866-2164 FAX：018-863-8997
 E-mail：ro-inhb@city.akita.akita.jp

